



編集者 清水節彦
発行所 白根町公民館
印刷所 笹野印刷所

人口四万の白根郷

田園都市への動き

町制施行以来の重大課題

町村合併促進法の施行以来、全国的に急激に合併の気運がたかまつて来た、政府も真剣にこの問題にとりくんでゐる。本県でも昨年十二月二十二日町村合併促進審議会を正式に設け、本格的に活動を開始した。

町村合併促進法の設置を目ざして、規約の決定を見て各町村ともそれ／＼慎重審議を重ねている模様である。白根町でも既に規約による委員五名の選任を決定した。委員は次の通りである。

塚田町長、皆沢議長、木村副議長、長井農協理事長、星野商工会長

原下各地の市町村では毎日の新聞を賑わしているように、積極的に実現に邁進している。そのたくましい意欲に敬服するのである。

町村合併の指向するところは、地方自治の強化拡充である。即ち財政の健全化、行政の能率化がねらいである。

徳川時代の交通、通信、文化経済の幼稚な時代では部落単位程度の集居であった。明治時代は人口三千から四千が適正である。

当町へ御邪魔してより数年を経過したが、この間電力事業に奉仕する私として、電力は民生の安定、文化の向上、産業発展の原動力であるとの固き信念の下に日夜及ばずながら微力を捧げていたつもりであるが、かゝる観点より日頃痛感している町発展策とも云ふべきものを紙面の都合もあり、要約させて頂きたい。第三者の目として或はビントを外れているかも知れないが御批判下されば幸甚と申す。

町村合併の指向するところは、地方自治の強化拡充である。即ち財政の健全化、行政の能率化がねらいである。

然しながら明治二十二年以来の大改革であるだけに容易ならぬ問題をはらんでいる。

① 先祖伝来の町村名の消滅に對する哀愁と部落感情の問題
② 合併後に於ける税金の問題
③ 町村役職員、顔役の地位。

合併により簡単に立直せることを考へることは余りにも早計である。従らねば力本願であり、依存心のみ強かつたらくら統合しても無駄であつて、却つて対立のみを深くするばかりである。

特に白根町にとつては町制施行以来の重大問題である。合併の中核は何んか云つても白根町でなくてはなるまい。

町民にとつては最も身近な問題である。従らねば日々のわずらわしさに傍観的態度であつては將來の町発展に悔を残す。一刻も早くこの問題を研究し察智をこめて、輿論を結集し、全町一丸となつて具体的な方途を打出すべき秋である。町百年の礎を固めるために。

去る二月十三日町議会は四つの専門委員会を設け、財務、厚生、文教、産業経済公企業、土木整備と、それ／＼調査研究に乗り出したことは賢明な策である。町民の期待も大きいわけである。

町のあらゆる機関を動員し、全町民の智能を結集し、町発展の課題にこたえられんことを。(完)

町発展策雑感

樋口次郎

白根町は町の人口の割合に料理屋、卸問屋の行商人の多い事或は季節的ではあるが歴史と伝統を誇る風合戦の偉容が印象に

残る。新濁、燕、新津等の間に位置し、地理的条件の良さがあるとは云へ、端的に云つて他町に比し豊かな町である事、前記相反する二つの事実を我々として子細に検討するに必要である。

根町出身者にして中央に活躍して、或は近頃の品川眞吾等と相とく、輸送の便が悪いか、巷間よく耳にする言葉である。一

面その他種々の事情あるにせよ産業の発展なくして町の発展はあり得ない事を想起する時、誠であるかは幾多の事実が証明する所である。それには、塊より始めよ、の諺の通り先づ町、町会、商工会、其の他各府を打つて一丸としたる委員会の如き組織を作り、察智をこめて町発展策を検討する要あり、必要あれば更に各部門に分け小委員会を作り、掘下げの事も必要である。輿論の動向を考慮し、委員会で協議決定せる事項は、粘りこめ志を以て積極的に実現を図るべきである。

文化体育両面等より見れば、目下話題になつてゐる高校誘致の問題、常設映画館の増設、屋内体育館の新築、或は公民館日活動の推進を図るべき独立家屋の物色等。

右は一例に過ぎないが、要は小異を捨て、人の和と企画性のある組織の力を以て推進するならば必ずや前途に光明を見出し得るものと確信する。(東北電力白根営業所長)

出なかつたり、また意見の一致が得られない場合には、甲論乙駁の論戦が展開され、熱心さのあまり殺氣立つてまで論じ、眞剣に検討する。そんなために会議が五満時に及ぶこともしばしばであつた。

わが編集委員はすべて、各自の仕事、職場をもつてゐる。要するに専任の記者がない。これは他の町村の広報とは大いに異なる。だからみんな仕事の片手間に編集会議に出席し、余暇を見つけては原稿を書く。そのため締切日まで原稿が間に合わず発行も遅れがちで申訳ないのだが、いかんせん、衣食住に追はれる身と

努力が実を結び、県下第三位の栄に浴した。今後ますます、よりよきより愛される館報をつくり、町民諸兄姉に附りたいと念じてゐる。わがわが、諸兄姉の御指導と御鞭撻をまつや切。

公民館報のあゆみ

廣報コンクール入賞に際して

昨春秋、県下の広報紙コンクールで「白根町公民館報」は、タプロード版の部で、新津、三条に次いで第三位に入賞し、岡田原知事より、左掲の表彰を受けた。この機会に公民館報のあゆみと、編集の方針を町民諸兄姉に紹介したい。一編集部

一、公民館報の歩み

わが公民館報が町民諸兄姉に祝福されながら、発足したのは昭和五年五月一日である。爾來、きよりの第一四号まで満四才をかぞえる。四才と言へばまだキカン坊ざかりである。しかし、この子供はなかくのキカ

三号だつた。俗つばい、低劣等の非難を浴びたけれどもわれ／＼はそれにあまじはた。なぜならば、これなら少しは読んでもらえる」と云う自信があつたからだ。その後もこころことなかつき／＼と改革をこころみながら、今日にいたつてゐる。創刊当時の館報よりは、ニュースのあるローカル・カラーを盛つた館報になつたと自負してゐる

二、編集について

現在の公民館報編集委員は、編集長清水節彦以下一〇名より構成される。そして各号の発行前に二、三回の編集委員会を開き、各人の記事のペースをきめ、各紙面にスペースをくむ、各紙で書けば簡単だけれども、実際の編集会議は記事の取捨選択、内容の適否、題(見出し)のつけ方活字のくみ方等にあらゆる面から検討を加え、論じ合つて編集方針をきめて、原稿を作成して発行されるのである。会議はいつも十一時頃終るけれども、結論が出なかつたり、また意見の一致が得られない場合には、甲論乙駁の論戦が展開され、熱心さのあまり殺氣立つてまで論じ、眞剣に検討する。そんなために会議が五満時に及ぶこともしばしばであつた。

三、編集の方針

われわれは政治的に無色であることとをこゝでハッキリ宣言したい。過日某氏より「館報は政治的に左右されてゐる」と指摘されたが、町の実情を考へるとき、われわれは政治的にデリケートにならざるを得ないのである。すなわち、さわらぬ神にたたりなし式の信條をもつて編集にあたり、政治的嫌疑を受けないと思われたい。政治的嫌疑を受けないと思われたい。政治的嫌疑を受けないと思われたい。

館報表彰の榮譽



このたび、われ／＼のささやかな努力が実を結び、県下第三位の栄に浴した。今後ますます、よりよきより愛される館報をつくり、町民諸兄姉に附りたいと念じてゐる。わがわが、諸兄姉の御指導と御鞭撻をまつや切。

